



～すっきり、シンプルなプリントが見やすい～

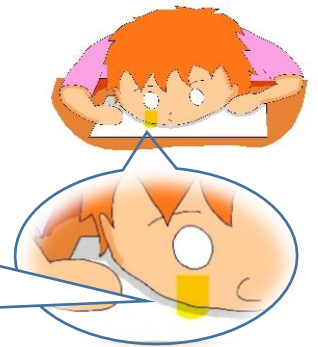
見えにくさのあるお子さんの場合、一般的な幼児雑誌や絵本など、カラフルでパッと見たときに明るくて色々なキャラクターなどがちりばめられていると、かえって分かりにくいことがあります。顔を近づけて手元を見ると見える範囲が狭くなり、全体像をつかむことが難しくなるからです。

そこで、子どもが見えやすくするために、すっきりとシンプルなレイアウトや見やすく拡大すること、そしてはっきりとした色のコントラストをつけるなどが望ましいです。そうすることによって、すばやく、そして目の負担も少なく、必要な情報を得ることができます。



見えにくさがなければ、20～30cm離して
見ることで、広範囲の情報を把握できる。

近づけば近づくほどに、見える範囲はより狭
くなる。しかも、視野の一部が欠けていたり、
もやがかかったような見えにくさがあったり
すると、さらに見えにくさが増す。



✚ 線結びプリントに取り組む

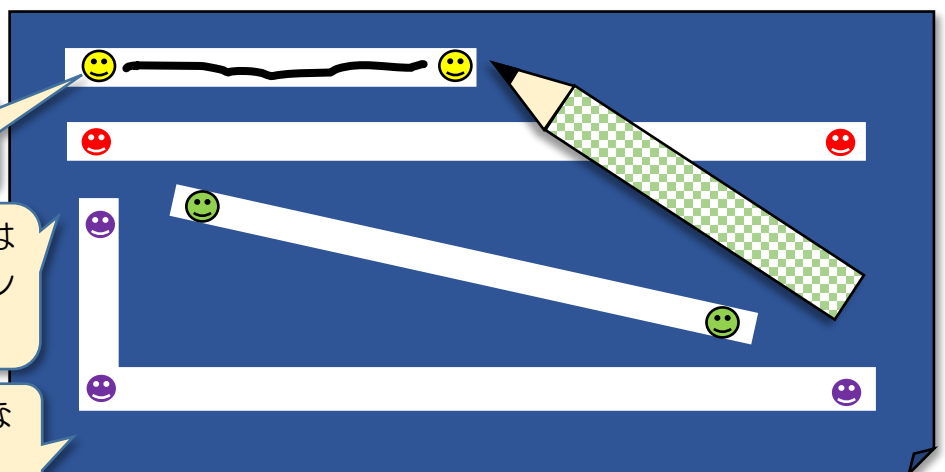
就学前のある子どもの相談の中で、線結びのプリントに取り組んでみたときのことで、お母さんから「線結びはやらないと思います。」と言われたのですが、次のような特徴を持ったプリントを準備したところ、スムーズに取り組んでくれました。

ポイント

①結び目の点を、子どもが好きなキャラクターにした。

②背景を濃い色、線の通り道は白い短冊をのりで貼って、コントラストをはっきりさせた。

③説明文は書かず、背景に絵などの装飾は加えない。



市販の線結びドリルのようなものだと、上記の雑誌や絵本のように見る物の量が多くて、どこからどこに向かえばよいのか分かりにくい子どもがいます。ましてや、鉛筆を持つようになって間もない幼児だとなおさらです。まずは、見やすい工夫で楽しく取り組めて失敗せずに達成感を持たせることが大切です。このように、初めて取り組む課題では、こうした配慮で子どもが抵抗を感じにくくなる工夫ができるとよいですね。